

心がけています」  
雑談も意識的に広げてらっしゃるんですか？



次のお宅に向かう寺崎さん

「そうですね。というのも、病気の話ばかりに終始すると、利用者さんにも「病者である自分」に意識が集中して後ろ向きになりやすいんです。病気のつらさやしんどさを伺うことも大切ですが、それだけでなく、

病気以外の元気な部分にも目を向けて広げていければと思っています」

なるほど、利用者の方々は精神的な疾患を持つておられることは事実であっても、病気の部分だけでなく健康な部分もたくさん持つておられ、その健康な部分を広げていくことが大切なのだ。

## 2件目のBさんのお宅にて

そうこうするうちに、次の目的地である城陽市の利用者Bさん宅に到着。先ほどのAさんよりも高齢で70代男性の方であったが、同じように挨拶してお邪魔させていただいた。

寺崎さんはBさんには、まずバイタルの測定をした後、「お薬のほうはどうですか？」と尋ねながら、なによりカレンダーらしきものをチェックされていた。

これは何をされているのですか？  
「お薬を確実に服用すること」に不安があるようなので、こうやって服薬

カレンダーを用意して、毎回一週間分をセットしているんです」

服薬カレンダーを見せただくと、一週間分のお薬が1日毎に朝・昼・夜・ねる前に分けて貼りつけられていて、飲んだかどうかひと目で分かるようになっている。

お薬の飲み忘れを防ぐため、週1回の訪問の都度、次の一週間のお薬をセットするのだという。

服薬カレンダーをセットし終えた寺崎さん、次はBさんの足元に顔を近づけて尋ねられた。

「足の爪はちゃんと切ってますか？  
うんうん、切ってますよとおっしゃるBさん。しかし寺崎さんの目はシビアである。

「これはちょっと伸びてますわ。自分では見えにくいでしょうから、こちらで切らせてもらいますね」

そしてバッグからニッパー形の爪切りを取り出してBさんの足の爪をキレイに切り揃えられた。

こんなことまでしてもらってすみませんなアと恐縮されるBさんだったが、利用者さんの身体面に目を配って、気になる点はケアすることも訪問のお仕事なのだった。

## 商売道具のカバン拝見！

こうして午前の2件を訪問して、いったん病院に戻ってきた我々。

寺崎さんは午後からも訪問に出られるわけだが、その合間に商売道具のカバンを見せていただくことにした。

このかばんの中身は何が入ってるんですか？

「お見せするほどの物はありませんけどこんな品々が入ってます」

その中身は、バイタル測定に使う体温計や血圧計、聴診器、そして先ほど使ったばかりの爪切りに加えて、名刺入れやメモ帳などだった。とくに奇抜なモノは入っていないが、逆に言えば、これらの基本アイテムさえあ

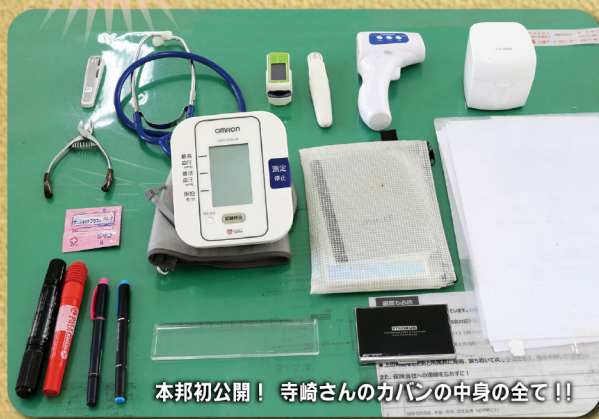


商売道具が入った寺崎さんのカバン

れば、あとはこれまでの経験と利用者さんとの信頼関係によって、よりよい訪問看護を築くことができるのだろう。

「病棟に勤務していた頃に比べて、利用者さんの社会生活に根差した回復に立ち会えるのが嬉しいですね」とおっしゃる寺崎さん。今後多くの人々を訪問看護で支え続けてくださることを祈る。

(取材と原稿／臨床心理士・名倉)



本邦初公開！寺崎さんのカバンの中身の全て！！



服薬カレンダー



カレンダーらしきものをチェックする寺崎さん



Bさんの足元に近づいて足の爪を切る寺崎さん



取材協力

寺崎 寿晃 (てらさき としあき)